

奇跡の湿原を次世代へ ～キウシト湿原の保全と活用～

1 社会資本の概要

キウシト湿原は、住宅や店舗などに囲まれ、住宅地の中にある奇跡的に残った面積約4.8haの湿原です。「キウシト」とはアイヌ語で「カヤ、群生する、走り根」という意味です。

環境省のレッドリストに絶滅危惧種として指定されているエゾホトケドジョウのほか、準絶滅危惧種として指定されているオオミズゴケやオオバタツボスミレなど、貴重な動植物が多数生息しており、このような重要性が認められ、平成13年には環境省の「日本の重要湿地500」に選出されました。

市街地にあることから、市民に身近な存在であるキウシト湿原は、登別の原風景を後世に伝える大切な道しるべです。



住宅地に囲まれたキウシト湿原全景



湿原内は木道が整備されており、車いすでの利用も可能

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「貴重な湿原を守りたい」、「子どもたちに登別の財産を残したい」という思いから活動を始め、湿原の保全・再生に当たっては、初期段階から市、市民、専門家によるワーキンググループを立ち上げ方策を検討するなど、三者協働で取り組んだ結果、外来植物の繁殖を抑え、在来植物が少しずつ復活するなど生態系が回復しました。

また、住宅地の中にある地の利を生かし、ミズバショウやホタルの鑑賞会など各種イベント、小学校の総合学習、「笹舟づくり」などの工作体験などを催すことで、市民の憩いの場、次世代を担う子どもたちの学習の場として定着しています。

多くの市民に「自分たちが守り育てている登別の宝」という誇りと愛着を持って、保全に関われるよう普及啓発に努めています。



在来植物（希少種）の育成、移植



小学校総合学習における生き物調査



子どもたちに大人気のホタル鑑賞会



北海道 登別市

特定非営利活動法人 キウシト湿原・登別

3 活動の成果や波及効果等

平成27年4月の一般開放後、平成28年は来園者が前年度を上回るなど、市内だけでなく、特に自然愛好団体など市外からの来園者が増えています。キウシト湿原は新たな観光スポットとして、温泉街周辺に偏りがちな観光客を呼び込み、「全市観光」を掲げる地域の期待に応えています。

また、ガイドを受けた一般客が貴重な湿原に感動して入会し今度はガイドする立場になったり、近所の子どもたちが準会員のようになり、一般客や友達に説明をしてくれるなど、湿原、自然環境の重要性を普及啓発できる人材も次世代へ広がっています。



毎回多くの市民が参加するミズバショウ鑑賞会



生徒が学習の内容を個性豊かに作成した「生き物新聞集」

喜びの声



受賞者

特定非営利活動法人キウシト湿原・登別
理事長 堀本 宏

コメント

市、市民、専門家の三者協働で、みんなが頑張った結果、自然保護だけではなく、まちづくりの観点で評価をいただいたことは、うれしい一言です。今後、教育関連を含め、受け入れ態勢をどうするかなど課題もありますが、登別の宝として誇りと愛着を持って活動を続けていきたいと思っています。

活動内容

湿原の保全・再生活動、集い・憩い、学習・教育の場づくり など

活動の経緯

平成14年 会の設立。湿原の保全・再生活動開始
平成25年 NPO法人移行
平成27年 ビジターセンター完成、
一般開放開始、管理業務受託

手づくり
について
郷土賞

グランプリ2016

講評

大賞部門

一般部門

資料集

所在地

北海道登別市若山町2丁目21番地

活動主体及び連絡先

特定非営利活動法人 キウシト湿原・登別 (0143-84-8470 ビジターセンター内)
閉園期間 (11月中旬～4月中旬) 連絡先 (0143-85-4115 登別市役所土木・公園G)

対象となる社会資本

キウシト湿原 ※管理者: 登別市

